

氏 名	ニヤンゲ・デイビッド・アブサロム Nyange David Absalom
学位(専攻分野)	博 士 (農 学)
学 位 記 番 号	農 博 第 1141 号
学位授与の日付	平成 12 年 7 月 24 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	農 学 研 究 科 生 物 資 源 経 済 学 専 攻
学位論文題目	THE ANALYSIS OF FOOD INSECURITY AND MALNUTRITION IN TANZANIA AND ITS POLICY IMPLICATIONS (タンザニアにおける食料安全保障の不十分さと栄養不良に関する分析とその政策的含意)
論文調査委員	(主 査) 教 授 辻 井 博 教 授 祖 田 修 教 授 加 賀 爪 優

論 文 内 容 の 要 旨

本研究の主たる目的は、タンザニアにおける食糧安全保障の不十分さと栄養不良の程度を分析し、それらに影響を及ぼしている要因を明らかにすること、そして不十分な食糧安全保障や栄養不良という問題を緩和するための適切な介入政策を見出すことである。本研究では、(1)タンザニア国民の主食であるメイズの市場の地域間統合の度合いを明らかにした；(2)農村と都市の就学年齢未満の子供の栄養不良の水準に影響を及ぼしている要因を明らかにした；(3)農村と都市の家計の食糧需要の価格弾力性と支出弾力性の推定を行い、それらの研究結果を基に食糧安全保障の確保のための政策を提示した。

第1章では、研究の目的とそれらの目的を達成するために検証される仮説について詳しく述べた。

第2章ではタンザニアの過去と現在の食糧政策、市場政策を検討した。食糧・市場政策は、都市バイアスを持っており、農村住民よりも都市住民の食糧安全保障をより改善するものであった。農村住民の食糧安全保障は、干ばつや洪水、疫病といった危機的状況が生じない限り、考慮されることはなかった。

第3章では、タンザニアの食糧供給と、生産・商業的食糧輸入・食糧援助との関係を分析した。その結果、1人当たりの食糧生産は過去40年の間にあまり増加していないことが示された。また、主食の生産と供給の変動が大きく、食糧安全保障が達成されていないことを示唆している。90年代には主食であるメイズの1人当たり供給量が減少してきている。

タンザニアは広大であるため市場が統合されているかどうかを調べる必要がある。第4章では、メイズ市場の地域間統合の度合いを明らかにするために、ティマー＝ラバリオン・モデルを応用した。全国各地の市場の月別価格を用いて、17の市場ペア間の市場統合度を分析した。その分析結果はタンザニアのメイズ市場が分断されていることを示した。故に、食糧安全保障を改善するためには分断された市場での非市場的政府直接介入が必要なことが明らかになった。特にメイズ余剰地域とメイズ不足地域の間の、食糧流通の空間的効率性を向上させる方策を明らかにした。

第5章では、全国からランダム抽出された家計での就学年齢未満の子供2935人の栄養不良について分析した。分析対象とした子供たちの年齢は0歳から59ヶ月である。所得、家族規模、世帯主の性別、母親の年齢、といった各家庭の特徴、その家庭が位置する地域の農業生態学的条件、季節性、そして年齢、性別、罹患率といった子供自身の特徴が、どのように子供の栄養状態に影響を及ぼしているのかを推定するために、プロビット・モデルとOLSモデルで分析した。

第6章では、家計の食糧需要を分析し、家計の所得、家族規模や年齢構成といった人口学的特徴が、食糧需要に与える影響を測定した。全国からランダム抽出された個別家計の生活費調査データと、Almost Ideal Demand System (AIDS) モデルを用いて、2118の農村世帯と2568の都市世帯の食糧需要の価格弾力性と支出弾力性を推定した。そして、家計の食糧需要の特徴と食糧安全保障との関係を分析した。

第7章では、本研究の目的、方法と、研究結果をとりまとめた。タンザニアの農村と都市の住民の食糧安全保障と栄養水準を改善するために、第4章と5章、6章での分析結果に基づいて政策的含意を導き出した。

論文審査の結果の要旨

タンザニアは世界の最低所得国で、栄養不良が重大な問題の国である。本研究はタンザニアの栄養不良問題の規定要因を明らかにし、これら問題を解決する政策を提示した。評価すべき点は以下の通りである。

1) メイズ市場の地域間統合に関する分析は、いくつかの市場、特に西部地域の市場が、部分的にしか統合されていない、あるいは分離されていることを示した。ダルエスサラームとムワンザが、それぞれ東部、西部地域におけるメイズの価格形成の中心であることも示された。市場統合の度合いは、市場間の距離、市場を結ぶ道路や鉄道の有無とその質によって、左右されている。

2) 就学年齢未満の子供の栄養不良から、彼らにとって、都市地域に住んでいるということが、栄養不良になる確率を有意に低くしていることが示された。農村地域では世帯主の性別や家族規模が栄養不良の重要な決定要因となっていたが、子供の性別、母親の年齢、季節性は、都市地域でより重要な要因となっていた。農村、都市の双方において、世帯員1人当たり支出は子供の栄養不良と負の相関を持ち、子供の年齢や罹患率と栄養不良は正の相関を持つ。

3) タンザニアの世帯食糧需要分析は、農村世帯は都市世帯に比べて食事内容の多様化の度合いや質が低いことが明らかになった。需要の弾力性分析から、メイズは農村世帯と都市世帯の双方において食費の最大のシェアを占め、その重要性は農村地域でより高い。また、世界の発展途上諸国と異なり、タンザニアでの食肉消費の重要性が明らかになった。

4) 政策的含意としては、西部地域の市場は統合されていないので市場を基礎としない、政府直接介入の食糧安全保障政策が必要である。市場の空間的統合を促進するために、道路や鉄道といった交通基盤の改善が必要である。栄養不良と食糧安全保障の不十分さは、農村地域でより深刻なので、農村により重点を置いた食糧安全保障政策が必要である。食糧安全保障政策はメイズ、食肉と家畜をより重視すべきであることが明示された。

以上のように本論文は、タンザニアの栄養不良問題とそれに対する政策的対応を大量の個別世帯データを用いて計量経済分析したもので、生物資源経済学、国際農村発展論、栄養計量経済学に寄与するところが大い。よって本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成12年4月14日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。